

のうはく通信



第 2 号

私達、チームで受け入れています。
何人連れてきてもいいよ。



**受入民家
随時募集中!!**

興味のある方は、お気軽に協議会事務局までお問い合わせください。

表紙の人 (左から)

胎内市	遠藤	金一さん
	遠藤	マサ子さん
	羽田野	孝子さん
	羽田野	栄さん

これぞわが家の自慢料理

●オレンジブラマンジェ

- ①コーンスターチを鍋に入れ、牛乳を100cc入れてよく溶かし、溶けたら砂糖も溶かす。
- ②残りの牛乳を加え弱火で3分ほどかき混ぜる。
- ③器に入れ、ある程度冷えたら冷蔵庫で冷やす。
- ④皿にジュースを入れ、そこにブラマンジェを盛り付ける。



オレンジブラマンジェ

材 料 (4~5人分)

- ・牛乳…………… 600cc
- ・コーンスターチ…………… おおさじ5
- ・砂糖…………… おおさじ5
- ・オレンジジュース…適量

『とっても簡単だから、目かいてもできるわよ。子供たちでも作れるし、食後のデザートに喜んでくれるわ。』子供たちの美味しそうに食べる顔が見えるようですね。

遠藤ファーム

27歳の時から畜産をはじめ、もうじき40年になります。品種は黒毛和牛。JAを通じて出荷しており、ブランド名「新潟和牛」として全国に販売されているということです。



只今体験学習中

●摘み草でピザ作り

- ①季節の草を摘み、きれいに洗う。
- ②ピザ生地を作る。
- ③生地を伸ばし、摘んできた草などをトッピングする。
- ④テフロン加工のフライパンにクッキングシートを敷き、その上で弱火で20分程度焼く。



摘み草でピザ作り

草花菜会

大人にも食事はもちろん、体験も提供しています。ご興味のある方はお問い合わせ下さい。

代表電話 **080-2390-5840**

編集後記

新年度がスタートし、来月からはふるさと体験学習もはじまります。今年ほどんな出会いが待っているでしょうか。今から楽しみです。

もりたろう

ご意見、お問い合わせはこちらまでお願い致します。

胎内市農林水産課 農村交流係
胎内型ツーリズム推進協議会301人会事務局
☎0254-48-3321 <http://tainai301.seesaa.net/>

事務局よりひとこと

このたび、もりたろうさんのご協力により、早々にこの「のうはく通信」第二号を発行することができました。子供たちの受入れは新たな出会い、発見などもあり楽しいもので、農家でも受入れは可能なんだ、ということをご理解いただき、農泊に興味を持っていただけると、泊に興味を持つていただける方が少しでも増えることを期待しています。どうぞお気軽にお問合せください。

事務局

ふるさと体験学習

現場の声を

お届けします



調理体験

平成20年度より行われている、小学5年生を対象としたふるさと体験学習。6年間の実施を経て、受け入れ農家が減ってきているのが現状です。今回インタビューした羽田野さんは農家ではありません。しかしこの事業がはじまった当初から受け入れを行っています。今回はその取り組みの仕方をご紹介します。



農作業体験の様子

タグを組みむことで可能となった受け入れ態勢 (二栄さん)

第二号は、胎内市赤川在住の羽田野さんにインタビューしました。『私農家じゃないんですよ。遠藤さんに体験の部分をお願いすることで受け入れが可能になりました。』家庭菜園を営む羽田野さんは、ご自身のおこなう野菜作りの規模から、農家ではないとおっしゃいます。『遠藤ファームさんでの体験は、天候に左右されずに頼めるので助かります。』羽田野さんはふるさと体験学習がはじまった年から受け入れをし、当初から遠藤さんとタグを組みむているそうです。『毎年三〜四件ぐらの受け入れをします。市外との交流があると良いと思います。市外の学校を受けることが中心です。』今年も東京の中学生も大勢来るので、羽田野さんのような方が増えるといいと思います。

子供たちの交流は楽しい！安全だけ気をつけてます (孝子さん)

『子供たちを受け入れることは楽しいのよね。慣れると簡単よ。』羽田野さんご夫婦は、二人の総意で受け入れをしています。奥様の負担が多いと言われる中、本当に楽しんで受け入れを行っているようです。『子供たちは採れたての野菜を使い自分で作った料理を、本当に美味しくいっぱい食べます。肉料理も大好き。肉のスジを切ったり、焼いたり、ほとんど自分たちでやってもらいます。手の込んだ料理もしたけど、目玉焼きとかシンプルなものの方が好きみたい。』孝子さんの言葉には余裕が感じられました。このような気持ちで受け入れてもらえると、同じ受け入れをする仲間として大変うれしく、またありがたいと思います。



畜産体験

好きな子は牛から離れない (遠藤さん夫妻)

遠藤さんは、常時百頭もの肉牛を飼育しています。『エサやりだけでも、三人で一時間ぐらいいかがるかな。くれすぎるとだめなのもあるんさね。それはあとで直さねばねんだけどね。』牛は様々な成長段階のものがいて、エサの量の加減も大切とのこと。『クイズやりたりして興味持たせるんさね。畜産用語は難しいから使わね様にしとね。それと、こっちからいろいろ質問して話させたりね。』話をさせることは心を開かせることにつながります。さすがだと思いましたが、『ウチには身体が不自由な牛がいてね。これも勉強だと思っ

て世話をしてもらってるね。動物好きな子は牛から離れねんさね。』この



畜産体験の様子



みなさんへのメッセージ

最後に、メッセージをお聞きました。『子供たちは何事にも興味を示す年代です。お手伝いも大好きで率先してやってくれます。子供たちと接することは本当に楽しいし、こちらが元気をもらっ



(写真提供・文：もりたろう)

ています。今受け入れ農家が減ってきているということですが、この事業の継続のため受け入れる方が増えてくれるといいなと思います。『お忙しい中、お話を聞かせくださりありがとうございます。』